

／あなたに知ってほしい！福山市上下水道局の取組／

芦田川の水質について

なぜ、芦田川は汚いって
言われているの？



芦田川には、次のような特徴があり、水質に影響していると言われています。

- ①瀬戸内式気候のため雨が少ない
- ②人口や産業が集積している

これに加え、

- ③下水道整備が遅れている
- ④生活雑排水が流入する

という点も、芦田川の水質に影響を与えていました。

上下水道局では、下水道整備を進め、生活雑排水の流入を防ぐ取組を行ってきました。

これにより、芦田川の水質は、改善する傾向にあります。

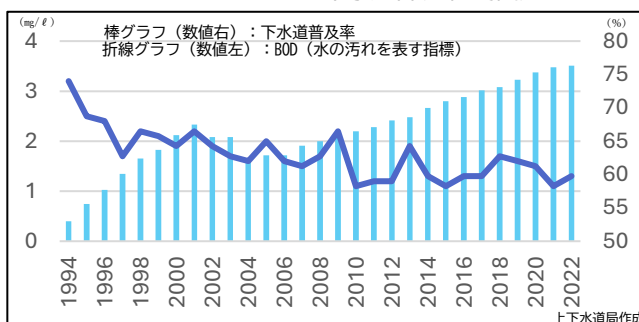
また、取水口※の水質は、県の環境基準をクリアしています。

※浄水場へ水を取り入れるところ。中津原地点。

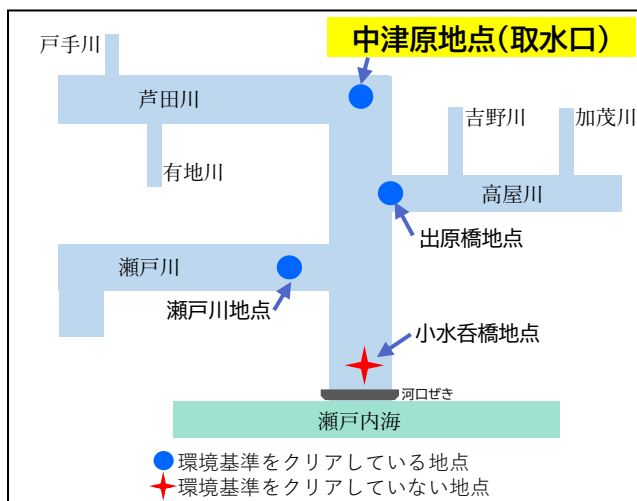


水道水は、環境基準をクリアした
水で作っているから、安心だね！

BOD(測定地点：中津原)と下水道普及率の推移



下水道の整備が進むにつれて、芦田川の水質も改善してきているよ。



芦田川下流水質協議会 第Ⅱ期芦田川水質アクションプラン(2021年度)をもとに作成

水道施設等の耐震化

地震等の災害時でも、ライフラインとしての機能を維持するため、水道施設等の耐震化を進めています。



基幹管路の耐震適合率は、
県内1位だよ！

	福山市	全国平均	中核市平均	県内水道の合計
基幹管路※1の耐震適合率※2	77.8%	43.3%	53.0%	32.0%
浄水施設の耐震化率	44.4%	44.5%	40.0%	21.5%
配水池の耐震化率	71.7%	64.7%	67.6%	64.7%

国土交通省HP「水道施設の耐震化の現状(令和5年度末現在)」, 中核市市長会「都市家賃」2025年1月、広島県健康福祉局食品生活衛生課「令和5年度広島県の水道の現状」をもとに作成。福山市の数値は、広島県の資料による。

※1 水道管の中でも口径が大きく、漏水による断水等が発生すると市民への影響が特に大きいと想定されるもの

※2 基幹管路の延長に対する耐震適合性のある管路の割合

浸水対策

市民が安心・安全に暮らせるまちづくりのため、時間雨量42mmの降雨により浸水被害が起こりうる市街地に対して、雨水を排除するポンプ場や雨水管の整備、雨水貯留施設の整備を行っています。

蔵王ポンプ場完成イメージ図



※2027年度末完成予定

浸水対策など災害への備えについては、ホームページでも紹介しています。QRコードを読み取って、ご覧ください。

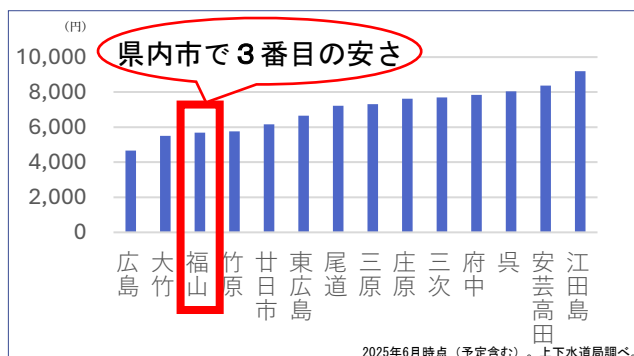


福山市上下水道局ホームページ
「災害の備えについて」

福山市の料金 (水道料金・下水道使用料)

福山市の水道料金・下水道使用料は、県内市で3番目の安さ※です。

※一般用（家事用）、メーター口径13mmで、1か月20㎡使用した場合の水道料金と下水道使用料の合計額（税込）での比較



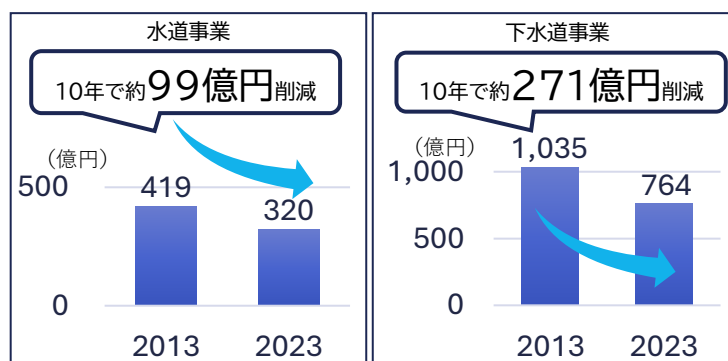
経営健全化の取組

上下水道事業の経営健全化とは、安定した財政基盤を確立し、経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」を最大限活用することで、将来にわたって質の高い水道サービスを提供し続けることを目指す取組です。これからも、より健全で持続可能な上下水道サービスを実現していきます。

テーマ	実施時期	内容
組織・機構の見直し	2012. 4	水道局と建設局下水道部を組織統合。「上下水道局」を設置
	2015. 3	出張所（東部・西部・北部・神辺）の廃止
	2020. 3	局全体の再編（3部13課34担当⇒3部10課31担当）
定員管理の適正化	—	2014年度から2024年度までの間で、40人削減
料金・使用料の適正化	2015. 3	水道料金の見直し（基本水量制の廃止など）
	2015. 3	下水道使用料の改定（平均改定率16.56%）
アセットマネジメントの実践	2015. 11	上下水道事業のアセットマネジメント（資産管理）の導入
多様な主体との連携 （民間活力の活用）	2010. 4	松永浄化センターの包括委託の実施
	2015. 4	営業関連業務等の包括委託。「ふくやま上下水道料金センター」開設
	2015. 4	漏水修繕業務の委託範囲を拡大。「ふくやま上下水道修繕センター」開設
	2017. 4	中津原浄水場等の運転管理、維持管理等を業務委託
	2022. 10	新浜ポンプ場改築事業基本協定締結（DBO方式：設計と建設及び運営を一括して行う方式）
多様な主体との連携 （広域連携）	2017. 1	污泥固形燃料化施設による污泥の共同処理（芦田川浄化センター）
	2023. 4	水道事業における水質管理業務の共同実施（福山市、井原市）

企業債残高の推移

上下水道局では、持続可能な経営を実現するため、新たな企業債の借入れについて、その年の返済額より少なくすることで、残高を削減しています。



頻発化、激甚化する災害への備え、老朽化する施設の更新など、市民生活・経済活動に不可欠なライフラインを維持するためには、今後も継続した投資が必要です。

上下水道局では、将来にわたって市民に信頼される安心・安全でしなやかな上下水道事業を確立するため、引き続き、経営健全化の取組を進めていきます。